

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー(編成方針)
共通科目(全学統一)	A-1 幅広い学問領域の基本的な概念や理論を修得し、教養としての知識・技能を身に付けることで、社会事象を多面的に理解することができる。	主に人文科学、社会科学および自然科学の各分野を中心とした、学問の基本的な概念や理論を修得するための科目を、選択必修として1年次から配置する。
	B-1 学びや研究の基盤となる思考力・判断力・表現力等を獲得し、幅広い領域に活用することができる。	リテラシー領域を設け、学びと研究の基盤となる思考力・判断力・表現力を修得するための科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。
	C-1 修得した資質・能力を主体的に活用し、多様な人々と協働しながら実際の課題に取り組み、創造的に課題解決に向かうことができる。	実習、演習、インターンシップ、ボランティアなどを中心とした、創造的に思考する力や他者と協働する力を修得するための基礎から発展への科目を、1年次から段階的に配置する。
	D-1 社会的課題やそれに対する学習・研究を通して、我々の生き方の指針を深く考え、自律的に真理を探究し続けることができる。	ライフデザイン領域を設け、生き方の指針および学び続ける態度を修得するための科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。
専攻科目	A-2 商学分野の知識と技能を適切に獲得・活用することができる。	商学部で取り扱う学問体系を理解し主体的に学修するため、経済社会や企業経営について複眼的に理解するための基礎部門科目を1年次を中心に配置する。
	A-3 モノとカネの効率的配分や円滑な流通について理解している。	流通、金融の機能と基本原理及び流通、金融に係る歴史・現状・政策やリスク管理の手法を理解し、これらの知識を現実の商取引に応用する方法を学ぶための商学部門科目を主に2年次より配置する。
	A-4 企業成果の計算・公表およびそれらに基づく経営管理について理解している。	会計分野の高度な専門知識や会計情報を作成する能力及び会計情報に基づく経営分析を行う能力を身に付けるための会計学部門科目を主に2年次より配置する。
	B-2 経済社会に生起する問題の本質を正しく認識することができる。	流通、金融の機能と基本原理を理解し、これらの知識を現実の商取引の理解に応用する能力を修得するための商学部門科目や、会計分野の高度な専門知識を持ち、会計情報に基づく経営分析を行う能力を修得するための会計学部門科目を、主に2年次より配置する。
	C-2 経済社会に柔軟に対応でき、かつ、高い倫理観と高度な専門知識を身に付けている。	高度な倫理観に支えられた論理的な思考力を修得するための商学部門・会計学部門科目や、グローバル社会でのビジネス・コミュニケーション能力を高め、ビジネスでの問題解決に向けたアイデアを立案・実行する創造性を修得するための研究・応用部門科目を3年次及び4年次を中心に配置する。
	D-2 専攻する分野を中心に、学問や社会の基本原理や真理について、自律的に探究することができる。	ビジネスプロセスで生じる具体的な問題について、専門知識に基づき解決案を導き、新たな環境を創造するよう能動的に取り組むことができるようになるための研究・応用部門科目を3年次及び4年次を中心に配置する。

【ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの各カテゴリー】

A:知識・技能

B:思考力・判断力・表現力等

C:総合的な学修経験・創造性

D:態度・志向性

カリキュラム・ポリシー(実施方針)

①商学分野の教育課程の編成をふまえ配置された各授業の内容に応じ、知識の理解を目的とする教育内容について、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式による授業形態を採ることとし、理論的な知識や技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容については、実習形式や実践形式を交えた授業形態を採る。

②少人数制で運用される演習科目においては、自己表現力、コミュニケーション能力、問題設定能力とその解決能力を高めるため、プレゼンテーションやディスカッション等の教授方法を用いる。

1. 求める学生像

商学科は、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた者を求める。

〔知識・技能〕

- ① 高等学校で履修する主要教科・科目の内容を幅広く理解し、高等学校卒業相当の知識を有する者
- ② 現代の経済・社会問題や企業等の経営課題に関する基礎的知識を有する者

〔思考力・判断力・表現力等の能力〕

- ① 課題解決に必要な論理的思考ができ、知識・技能を活用した判断・表現ができる能力を有する者
- ② 多様な人々と協働するうえで必要となるコミュニケーション能力を有する者
- ③ 課題を主体的に発見し、チームで協働しながら、構想を実現させる能力を有する者

〔目的意識・意欲〕

- ① 高度な倫理観に支えられた問題意識を持つ旺盛な知的好奇心のある者
- ② 商学や会計学などの諸領域について広範かつ専門的な知識の学修を通じて、自らが立てた将来の目標の実現を図る志の高い知的柔軟性のある者

2. 選抜方法

商学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

- (1) 一般選抜(一般入試、英語4技能利用型一般入試、大学入学共通テスト利用入試(前期・後期)、一般・共通テスト併用型入試)
高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。
- (2) 総合型選抜(総合型入試)
総合型選抜では、日商リテールマーケティング(販売士)検定や日商簿記検定などの資格取得を出願資格に加えることにより、商学科での学びに強い興味を持ち、その能力を維持発展させる意欲のある者を評価する。総合型選抜では、調査書、志望理由書および学修計画書による書類選考を行う。そのうえで、受験者には、小論文、学修計画に関するプレゼンテーションおよび面接を課し、出願時の提出書類を含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的に判定する。
- (3) 学校推薦型選抜(指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試)
学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の目的意識・意欲、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。
- (4) その他の選抜(外国人入試、国際入試(帰国生・IB生))
多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人、帰国生及び国際バカロレア資格取得者のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。